

婚礼風習の「花嫁のれん」

はなむこ

「花婿のれん」もある？

花嫁のれんは、婚礼の際、嫁ぎ先の仏間入口に掛ける加賀友禅の美しいのれんで、花嫁の実家の家紋が染め抜かれています。花嫁のれんをくぐる婚礼風習は、近年はあまりみられなくなりましたが、加賀藩の領地内（石川県、富山県西部）で今も継承されています。

ではここで質問です。**花婿が持参するのれん**は、ある？ ない？

答えは「ある」が正解。下が実際に婿養子を迎える際に花婿が持参した「**花婿のれん**」の実物です。

婿のれんとも言い、花嫁のれんとは異なる絵柄や、家紋が入っただけの無地の物などがありますが、現存している数が少ないのか、なかなか実物を見ることができないそうです。

※「金沢くらしの博物館」HP参考



さて、2024年秋、ジェンダーレスきもの（男性用きもの）として、加賀友禅の今後の展開を目指したきものが製作・お披露目されました。

加賀友禅作家の一川 忍さんによるもので、導きの神と称される「八咫鳥」を題材にデザインされています。このきものは、加賀友禅文化協会が取り扱う「加賀友禅着装フォトプラン」にて着装できるよう、企画がすすめられています。